

## 仙台・豊齢学園と協働で支援活動

これからの東北支援活動について、仙台の「豊齢学園」と協議を重ねていましたが、昨年10月末に「来年(25年)から連携して活動しましょう」との合意が得られました。実際の活動は、学園の卒業生グループで作る「せんだい豊齢ネットワーク」と協同で行うことになります。

手始めに、7月ごろ女川町で七夕飾りの講習会や料理教室を実施することにしました。ディスコン(仙台で広く行われているカーリングに似た軽スポーツ)やペタンクの親善試合も考えています。



豊齢学園はシルバーカレッジと同じような生涯学習施設で2500人の卒業生がいるそうです。その卒業生が折り紙や写真、

料理、おもちゃドクターなど様々なクラブ活動やボランティア活動をしています。全部で30ほどあるそうしたグループをまとめているのが豊齢ネットワークです。

一方、しあわせの村の福祉振興協会とは、今年も東北支援活動と一緒にやる予定になっており、そこに豊齢ネットが加われば、より多彩で現地の要望に即したきめ細かなプログラムを組むことが可能になります。

グループ〈わ〉の支援活動も3年目を迎えますが、〈わ〉と振興協会、豊齢ネットが一体となって、被災者に喜んでもらえる支援活動に取り組んでみたいと思っております。(東北支援プロジェクト・海野龍英) =写真=女川町に店開きした仮設の商店街⑤と豊齢学園のサークルが作った七夕飾り(高さ約50センチ)



### 被災地の子供たちから

#### お礼のメッセージ続々

「カレッジのみなさんありがとう」――東北支援チームが訪問した小学校・保育所・児童館などから、かわいいメッセージや絵・紙工作・写真集が次々と〈わ〉事務局に届いています。訪問する際は、神戸の子供たちが書いた励ましのメッセージを預かって持参していますが、現地では、こちらが恐縮するほど喜んでくれ、壁一面に張ってあります。1年前のメッセージもちゃんと残っており、私たちもびっくりしたり感激したり。

メッセージの交流は古後健一さんたちの発案です。第1次派遣に際して、「物資以外に何か届けるものがないか」と考え、日頃、ボランティアで訪問している地元の小学校や児童館にお願いしたのがきっかけです。どこも快く引き受けてくれ、短期間で多くの寄せ書きやメッセージが集まりました。

以後、2次・3次チームもメッセージを持参することにしました。近頃では、神戸と被災地の小学校同士、児童館同士の交流も始まっており、交流の輪の広がりに私たちも喜んでいきます。

2次・3次で訪問した名取市・増田保育所の阿部勢津子所長から届いた礼状の一節を紹介します。

〈昨年に引き続き本年も遠い宮城・名取まで足を運んで頂きましてありがとうございました。子ども達は皆様の思いに、こぼれんばかりの笑顔と驚きと、様々な体験を、あの短い時間にさせて頂きました。充実した時間でした。(以下略)〉。(16面に写真)

年末には、Xマスプレゼントの礼状も届き私たちも温かい気分で新しい年を迎えることができました。

#### サポート募金のご報告 (10月1日~12月25日分。敬称略)

2012音文交歓会7673円、川柳クラブ3千円、横井正昭(国6)千円、K.A(福11)1万円、未来館募金箱5千円、柴田久栄(生13)5千円、フランス文化研2万円、支援報告会募金箱5250円、募金箱281円。計5万7204円。

#### 〈わ〉への入会勧誘を

グループ〈わ〉の入会受付が1月8日から始まりしました。「再び学んで他のために」を仲間と共に実践する場です。現在の会員は約1300人。学習支援・電話相談・各種イベント事業・地区会活動・サークル活動など多彩なボランティア活動を展開しており、一昨年から東北支援活動にも取り組んでいます。今年はカレッジ創立20周年を迎え、私たちの活動分野もより広がります。この機会に後輩や知人に声掛けをして会員を増やしましょう。ご協力をお願いします。問い合わせは、〈わ〉本部(TEL743-8101)まで。